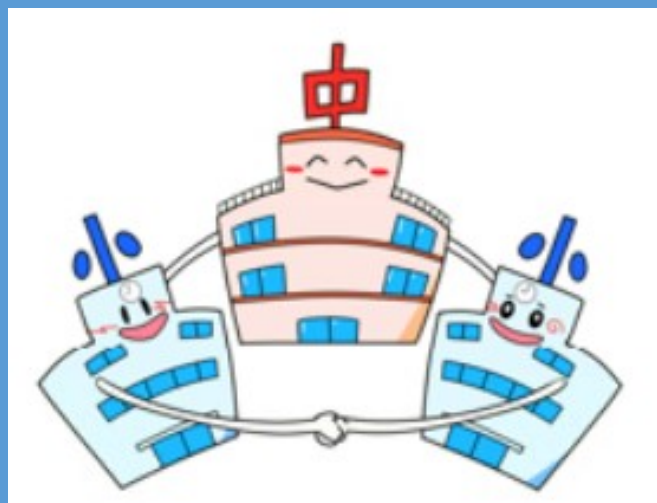


**令和5年度**

**川島町小中一貫教育推進協議会による  
小中一貫教育校の先進事例視察  
報告書**



**令和6年1月**

**川島町教育委員会 川島町小中一貫教育推進協議会**

# 目次

## **1 視察の概要** **P1～2**

---

目的・趣旨、内容、参加者等

## **2 下総みどり学園について** **P3～6**

---

経緯、配置図、目標・理念・方針、取組内容等

## **3 下総みどり学園の視察報告** **P7～23**

---

各参加者から

## **4 まとめ** **P24**

---

小中一貫教育校の先進事例視察を終えて

# 1 視察の概要

小中一貫教育推進協議会は、昨年度より、令和7年度の小中一貫校の開設にかかる検討を開始しました。そこでまずは、協議会委員が小中一貫教育校のイメージを得る必要があると考えたことから、令和4年12月15日に、千葉県で最初の小中一貫教育校である、成田市の下総みどり学園（義務教育学校）を視察しております。

この視察から、小中一貫教育における施設・設備の面、また教育活動の面ともに、参考となる点が多かったことから、今回、小中一貫教育の取組みにかかる検討メンバーである専門部会員（各校の教務主任等）、ならびに学校現場で直接指導にあたる教員を対象に、教育活動面にテーマを絞り、再度、下総みどり学園の視察を行いました。

## （1）視察日、場所、時間

視察日	視察場所	視察時間
令和5年11月27日 (月)	成田市立下総みどり学園 成田市名古屋1214	午後0時50分～午後2時50分 2時間

## （2）視察目的・趣旨

昨年度、小中一貫教育推進協議会において検討された「9年間を見通した小中一貫教育の目標」に基づき、教育委員会では、7月に「川島町小中一貫教育基本方針」を作庭しました。そして現在、専門部会（各校の教務主任等）において、基本方針に基づき、①新しい日課表の作成、②小・中学校教員の乗入れ授業、③小・小合同事業、④小・中合同事業などの検討を進めております。

このようなことから、検討作業の参考とする目的で、下総みどり学園を視察しました。

## （3）視察内容

- 1) 小・中学生の縦割り活動の見学（清掃活動）
- 2) 中学校教員の乗入れ授業の見学（図工、音楽）
- 3) スクールバス（下校時）の見学
- 4) 質疑応答

## （4）参加者

小中一貫教育推進協議会・専門部会員（教務主任等）	小学校3名、中学校3名
小中学校教員	小学校1名、中学校4名
教育委員会事務局職員	4名
	(合計) 15名



集合写真（校地内・交流広場にて）

## 2 下総みどり学園について

年 月	これまでの経緯
平成18年3月	成田市・下総町・大栄町の合併により、新しい成田市が誕生
平成20年3月	「学校適正配置調査結果報告書」により、下総地区の4小学校（滑河、小御門、名木、高岡）を、5～6年後に統合することが目標として掲げられる。
平成23年7月	「下総地区小中連携推進委員会」の発足により、小中一貫教育を目指すことを確認
平成26年4月	下総中学校の敷地内（グラウンド）に統合小学校校舎を新たに建設し、施設一体型の小中一貫教育校「下総みどり学園」を開校
平成29年4月	義務教育学校に移行

令和5年5月1日現在

前期課程（小学校） 231名・10学級、知的1学級、情緒1学級

中期課程（中学校） 144名・6学級、知的1学級、情緒1学級

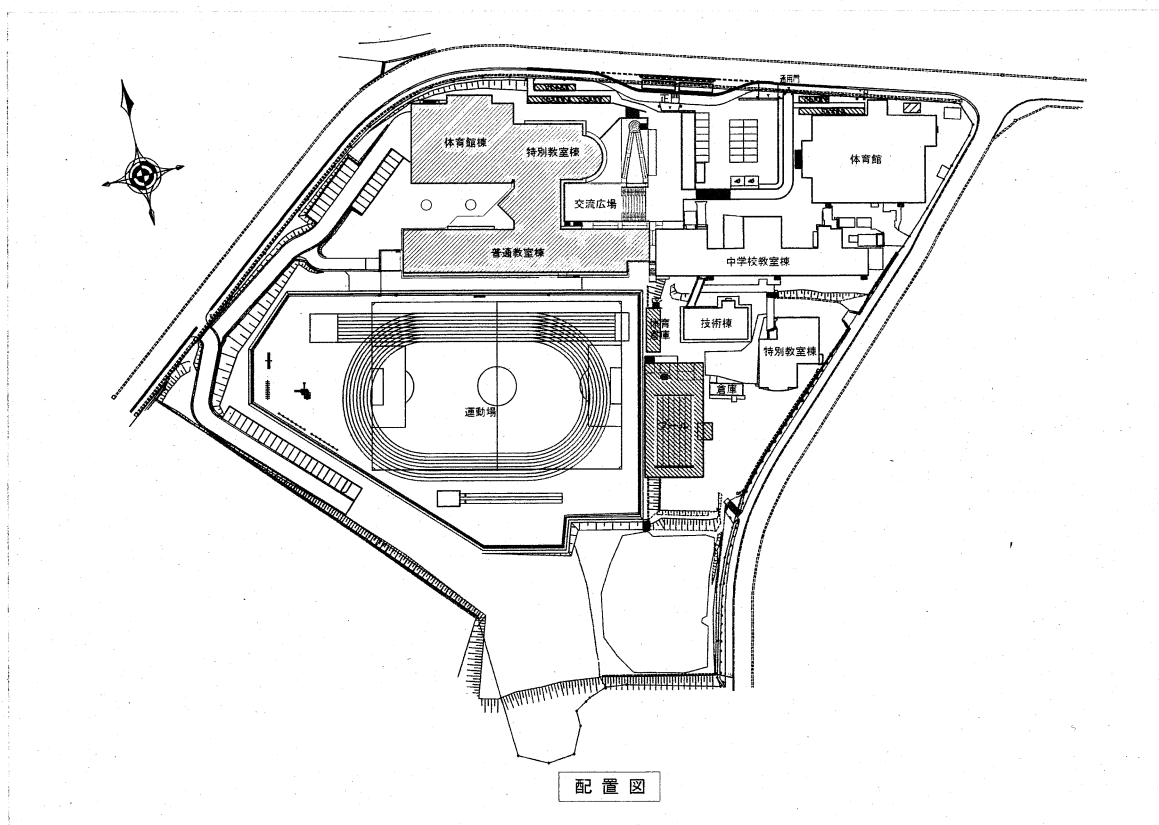
成田市の下総地区は、丘陵地で、近隣に国際空港があるといった当町にはない特徴がありますが、田園が介在する農村して発展してきた点（早場米、れんこん、サツマイモの産地として有名）、圏央道が地区を縦断しインターチェンジがあるといった点で、地域性において当町と類似性があると考えます。丁寧に地域の理解を得ながら、小・中学校を1校に集約しながら、小中一貫教育に取り組んできた点、小中一貫教育校として既に10年の歴史がある点は、当町で推進する小中一貫教育の研究に示唆を与えるものと考えます。

なお、この学校の児童・生徒数は400名弱、全学年ほぼ2学級編成であり、令和7年度につばさ小学校と川島中学校による施設一体型・小中一貫教育校の規模（児童・生徒数）と同程度であることも、視察の大きな理由です。

以下は、下総みどり学園の学校要覧・HPから引用  
(校舎全景)



(配置図)



## ◎学校教育目標

『地域とともに夢と希望に向かってたくましく生きる下総っ子』

### ●基本理念

義務教育9年間を見通し、途切れることのない一貫した指導方針のもと、一人一人の子どもが着実に学力をつけ、心身共に健全で、豊かな人間性と社会性を発揮できる人間として成長していけるよう、継続した学びを実現する。

### ●基本方針

- 1 継続した学びを実現するため、小中学校の垣根をなくし、児童・生徒、教職員の相互理解を深め、既存の枠にとらわれない弾力的なカリキュラムを編成する。
- 2 継続した学びの中で着実に学力を身につけさせるため、9年間を子どもの発達段階に応じた区分に分け、それぞれの段階に応じた効果的、効率的な指導を迫及する。
- 3 下総地区の伝統を生かし、地域と共に子どもを育てるという思いを共有しながら豊かな人間性を育てていく。

◆日課時程

1日の生活の流れ

4年生までは1コマ45分、5年生以上は1コマ50分を単位として授業を実施しています。

1～4年生		5～9年生
7:55	予鈴・入室完了	7:55
8:00～ 8:15	朝自習・朝読	8:00～ 8:10
8:15～ 8:30	朝の会	8:10～ 8:20
8:30～ 9:15	1校時	8:30～ 9:20
9:25～10:10	2校時	9:30～10:20
10:10～10:25	業間	
10:30～11:15	3校時	10:30～11:20
11:25～12:10	4校時	11:30～12:20
12:10～13:10	給食・休憩	12:20～13:10
13:15～13:30	清掃	13:15～13:30
13:40～14:25	5校時	13:40～14:30
14:35～15:20	6校時	14:40～15:30
15:25～15:40	帰りの会	15:35～15:50
	部活動	16:05～

◆教科担任制（小・中教員の乗入れ授業など）

5年生以上の学級は、ほとんどの学習を専科もしくはTTの形で実施しています。免許教科があれば、小中の枠を超えて教科担任として授業を行うことができます。免許教科外の場合は、T2として授業に参加して、授業の充実に努めています。

5年A組 時間割

	月	火	水	木	金
1	社	家   社	道	算	英   図
2	算	算	国	英	図
3	国	音	家	国	国
4	体	音   英	算	理	算
5	学	理	体	社   体	理
6		書	社	ク	総

担任	TT	教科担任
----	----	------

TT

- ・1つの学級に2人以上の教員（小中）が入り、連携して指導するもの

教科担任

- ・専門の教科の教員の配置など

## 6年B組 時間割

	月	火	水	木	金		
1	国	算	道	国	社		
2	英	理	理	体	算		
3	音	国	社	社	家	音	体
4	算	体	社	英	家	理	
5	学	図	書	算	国		
6		図	英	算	ク	総	

担任	TT	教科担任
----	----	------

TT

- ・1つの学級に2人以上の教員（小中）が入り、連携して指導するもの

教科担任

- ・専門の教科の教員の配置など

### ◆特色ある取組（小・中での合同活動）

9年間の連続した学びならではの行事を工夫し、4年生、7年生、9年生のリーダー性を高める取り組みを行っています。

#### ・行事

始業式	2年生から9年生までが登校します。 7年生は入学式がないので、始業式から登校です。
入学式	1年生だけ、7年生が1年生の手を引いて入場し、全校児童生徒が拍手で迎えます。
合同合宿	5年生と7年生が合同で宿泊学習を行います。
体育祭	全校で体育祭を行います。1年生から9年生までが参加できる種目を取り入れています。
卒業式	9年生だけ、卒業を全校でお祝いします。 6年生は卒業式後、「中期ブロックリーダー引継式」を行います。

#### ・生徒会活動

生徒会 部活動	5年生になると生徒会と部活動に参加するようになります。 4月に上級生から、生徒会と部活動の紹介があります。 生徒会総会、役員選挙にも5年生から参加します。 4年生以下が、文化祭で学習発表会を行います。 5年生以上は、合唱コンクールに参加します。
全校遠足	1年生から9年生までの縦割り遠足に行きます。

#### ・清掃活動・その他の取組

清掃活動	縦割で、小中学生が一緒に清掃を実施します。 ほうきや雑巾の使い方、清掃の手順を上級生が指導します。
その他	身体測定の上級生が下級生をリードしながら実施します。 避難訓練も全校で実施します。



### 3 下総みどり学園視察報告

小中一貫教育推進協議会専門部会員（中山小学校）

#### 1) 視察で、見たこと 聞いたことなど

- ① 中学校の先生と小学校の先生が、何の違和感もなく清掃指導をしていた。
- ② 全校が大きな軒下に集合し、それぞれの方面に向かってスムーズに一斉下校をしていた。
- ③ 清掃中は、輪を乱す児童もおらず、黙々と集中して取り組んでいた。
- ④ 中学校籍の先生が、小学生に対して音楽の授業や図工の授業を行っていた。
- ⑤ 職員室前の掲示物が充実しており、とても華やかだった。

#### 2) 1) について思ったこと、あるいは印象に残ったことなど

- ① 中学校の先生と小学生、小学校の先生と中学生が自然と関わり合っていて、これまでの積み重ねを感じた。
- ② 大きな軒下という設備が素晴らしいこともあるが、教室でさようならをしてからの流れが全校できちんと指導され、習慣化されており、とても一体感のある整然とした下校の様子だった。
- ③ どの掃除場所でも、大きな学年が小さい子たちのそばにいて、無駄な会話をせずに取り組む様子から、縦割り活動がごく自然におこなわれていることがよく分かった。
- ④ 中学校籍の先生が小学生向けの言葉を使いながら授業を行っており、小中一貫を意識した言葉がけの大切さを感じた。
- ⑤ 小中学校の行事が合わさっているということもあり、全体的に行事の数が多いと感じた。どれも大切な行事ばかりだが、仕事が回るのだろうか。

#### 3) 本町ならば、どのような小中一貫教育を取り入れられるか

- 縦割り掃除
- 中学校や小学校の文化祭にお互い参加する。
- 小学1年生が中学生から長縄などを教えてくれる。
- 小学1年生が中学生から牛乳パックを開く補助をしてもらう。
- 中3だけでなく、小4や中1といったミドルリーダーが活躍する場面を設ける。
- 本来小学6年生が経験する「卒業式」のような、節目の行事をきちんとやってあげたい。

## 1) 視察で、見たこと 聞いたことなど

- ① 前期・中期・後期ブロックに分け、日課や時程を工夫し編成していること  
前期では4年生、中期では7年生、後期では9年生とリーダーとして活躍の場を設けたり、5年生、6年生を7年生（中学校1年生）と同じフロアに配置し、合同の校外行事を実施したりしている。このような、4・3・2制を導入することでそれぞれの課程の最上級生がリーダー性を育めたり、縦の人間関係を築けたりするよう工夫されている。
- ② 清掃活動を1～9年生の縦割り班で行っていること  
清掃活動を異学年と行うことで、様々な人間関係を築くことができる。また、下級生に掃除の仕方等を教えるために上級生はリーダーシップ発揮することができる。
- ③ 教科担任制の導入  
5年生や6年生は、中学校教員が教科を担当し授業を行っている。また、担任同士で教科を分担し受け持つことで、担任が受け持つ教科が中期ブロックでは少ない。

## 2) 1) について思ったこと、あるいは印象に残ったことなど

1) のような取組を行うことで、下総みどり学園は、職員の小中間の意識差や感覚差がほとんどなく、同じベクトルをもって児童生徒と接していると感じた。様々な活動や行事を共に行い、教員は、本来校種の違う子供たちとも接することで、児童・生徒理解を深め、小中間の意識差や感覚差がなくなっているのだと感じた。中期ブロックは中学校の生活を同じフロアで見ることができ、中学校の教員が教科を担当していることから、いわゆる【中一ギャップ】も軽減されるよさもある。

また、合同行事の初めは、小中の取組の違いから様々な意見が飛び交い時間がかかるが、そこをすり合わせ折り合いをつけ、実施することで義務教育学校こそそのかけがえない行事にすることができると感じた。

## 3) 本町ならば、どのような小中一貫教育を取り入れられるか

本町でも、下総みどり学園のような小中一貫教育を行うことができると思う。小中一貫だからこそ、可能となる人間性の育成や人間関係の育成を積極的に図っていくべきだと考える。様々な小中一貫教育の取組を行うことができるが、今回視察の中で取り組んでいた【5年生～9年生の児童会活動】は魅力的だと感じた。



【下総みどり学園 児童会活動写真】

小中合同にすることで人数が多くなり、行える活動の幅が広がる。また、4つの学年が児童会活動を共に行うことで、様々な気づきと学びがある。さらに、

5年生、6年生の成長段階において、進行の仕方、話し方など間近に模範的存在がいることが、人間性を深める上で重要である。この存在が、小中分離だと得られない小中一貫教育のメリットだと感じた。

1) 視察で、見たこと 聞いたことなど

- ① 中学生が小学生（低学年）の手を引き、掃除の場所に向かっている姿は新鮮でした。
- ② 小学5年生の図工の授業を参観させて頂いたが、担当は中学校の美術担当の教諭が指導していると聞いた。
- ③ 1～9年生まで縦割り活動を通じてリーダーシップ、フォロワーシップを育成できる素晴らしさ。  
→4年生でリーダー体験、7年生で中期引き継ぎ式、9年生で本格的なリーダー



2) 1) について思ったこと、あるいは印象に残ったことなど

①について

- ・小学生から中学生が縦割りで掃除を行っていたが、とても静かに丁寧に掃除ができており、上級生の見本や指導が行き届いているのだなと感じた。
- ・実際に縦割りで掃だと感じた。一方で、空き時間の確保など小、中学校で平等に先生方の時間割を作る必要があると感じた。

②について

- ・中学校の専門科目等の指導が小学校（高学年？）でも受けられるのは、とても魅力的であると感じる。
- ・縦割り活動の中で、ポイントを押さえて、リーダー育成をできるのは、小中一貫の強みであると感じた。特に、1～4年、5～7年、8～9年と区切りを付けることで上級生が下級生を面倒見る（フォローする）ということにも繋がりがやすいと感じる。

③について

掃除を行うとなると、小中での掃除分担やそこに至るまでの指導の困難さがあったのだろうと感じた。

### 3) 本町ならば、どのような小中一貫教育を取り入れられるか

枠組みをしっかりとした上で、

- ① 小中連携した乗り入れ授業の展開  
→年度の教員の指導できる状況による
- ② 1～4年の縦割り活動。5年～中学3年までの連携事業  
※教科担任制、部活動 体験など
- ③ 1～4年生の縦割り全校遠足。5年と7年の宿泊学習。  
6年、中2の修学旅行  
※6年、中2は別々。など



1) 視察で、見たこと 聞いたことなど

①縦割り活動について ～全学年での縦割り清掃活動～

- ・ 1年生～9年生による全学年での縦割り清掃活動の実施。
- ・ 各学年2名ずつ配置される班を形成し、1班20名弱での編制。
- ・ 1年生～4年生までの前期課程のみでも活動できる配慮。
- ・ 8年生、9年生の2学年に渡るリーダーシップ発揮への配慮。
- ・ 年度当初の4月に、1年生から順に縦割り班編制を行い、5月より縦割り活動を実施。
- ・ 増改築により構造が複雑化した校舎であったが、校舎全体を網羅した清掃活動分担場所の設定。



②教員の持ち授業時数について ～小中一貫校の特性を活かした教育課程編成～

- ・ 5、6年生からの教科担任制の実施。  
現状として、加配の状況等を考慮しながら、授業分担の仕方を工夫しながら実施。  
特に、実技教科（音楽、図工）では、中学校課程の教員(専科加配)を中心に授業担当を決め、その他の教科（国語、算数等）は学年間での交換授業を実施することで、専科制を維持。
- ・ 小学校課程教諭の持ち時数は、週あたり25時間程度に揃えた授業実施。
- ・ 中学校課程教諭の持ち時数は、周辺校（一貫校以外）と比べ+1～2時間程度での実施。



③下校時の様子より ～スクールバスの運行について～

運行体制：マイクロバス8台、大型バス2台 による登下校運行。

マイクロバスの発着場所と大型バスの発着場所を分けて、同時に発着できるようにしている。

下校時、1～6年生が揃って下校する際は、6年生が中心となり下校班で下校。

## 2) 1) について思ったこと、あるいは印象に残ったことなど

### ①『全学年での縦割り清掃活動』について

- ・清掃分担場所ごとの担当教諭の指導のもと、日常的に見守る体制を整えることで、諸課題への対応は十分にできるように感じた。
- ・年度当初からの共通理解を図り、共通行動を進めることで、学校全体で落ち着いた雰囲気の中、清掃活動が行われていた。

※実際の工夫として、①輪番による清掃場所の交代方法や、②清掃場所ごとでの清掃分担の割り振り方を教職員だけでなく、児童生徒がわかりやすいように企画したい。

### ②『小中一貫校の特性を活かした教育課程』の実施について

- ・5年生から教科担任制を実施することをベースに教育課程編成ができてい学校の実際の工夫や実践方法を知り、日常的なより質の高い授業の実践につながる視点での、教員の授業準備の効率化や、割り振り分担の工夫をしていきたいと思った。
- ・みどり学園による説明を聞く限り、年度ごとに教科加配や、教科担当講師の配属に若干の差はあるようだが、教科担任制を維持できる組織の人員確保が為されている印象を受けた。

### ③『スクールバスの運行』について

- ・地区の人数、運行距離等の配慮もあり、マイクロバスと大型バスの2種類の車両で運行。
- ・課題として、大型バスのランニングコストや運行道路事情や停留所の確保の可否は、その地域ごとの実情によるものなので、一概に評価し難い印象を受けた。

## 3) 本町ならば、どのような小中一貫教育を取り入れられるか

### ①『全学年での縦割り清掃活動』から「縦割り活動」の充実へ

- ・コロナ禍以降に行われている、つばさ北小学校、つばさ南小学校の両校で実施している縦割り清掃活動の実践による教育的価値や効果を大切にしたい。

また課題を捉え、新設校に引き継ぎたいと考える。実際に、高学年が責任をもって活動する場面が多く見られ、下学年に優しい声かけや、掃除の仕方を教えている様子は、現段階での成果と言える。

この経験を経て成長した児童生徒の活躍の場となる充実した縦割り活動の在り方を探求するとともに、実践していきたい。

### ②『小中一貫校の特性を活かした教育課程』の実施について

- ・「児童生徒の為」を視座に、より質の高い授業の提供となる教育課程の編成をしてい

きたい。

その為にも、従来からの授業分担の捉え方や考え方を見直し、一貫校に通う児童生徒にとって何をすることがよい質の高い授業の実践に繋がるかを教職員で考え、共有していきたい。

③『スクールバスの運行』について

- ・今現在、進んでいるスクールバスの運行に関する協議内容や課題点を明確にしていく。

「スクールバス運行の趣旨」を児童生徒だけでなく、保護者や地域の方々へしっかりと伝え、理解を深め、新設校設置に伴い生じた「登下校における距離の課題」を解決するとともに、安全な登下校の確保を進めていきたいと考える。



1) 視察で、見たこと 聞いたことなど

- ・清掃活動：7～9年生が上手にリードしながら活動していた。
- ・清掃の縦割り班編成：4月当初に生徒会が主となり先に決める。（兄弟は後から調整）  
5月初旬より縦割り清掃を実施。（計18班）
- ・リーダー体験：4年生、7年生、9年生で行う。
- ・開校1年目、すり合わせが大変。  
「小中一貫教育校」→全職員に兼務発令。  
「義務教育学校」→兼務発令はいらない。校内で異動できる。
- ・職員室の配置：前期（1～4年生）、中期（5～7年生）、後期（8～9年生）
- ・空き時間：1、2年生は空き時間が少ない。  
3、4年生は、中学校教員が一部の教科を担当する際に、空き時間ができる。  
5、6年生は、教科担任制を実施【50分授業。令和5：社、美、音、保体で実施】
- ・行事：1年目は、前期（1～4年生）、後期（5～9年生）と分けて行っていた。（コロナ前）コロナ後、「1～9年生（全学年）で同じことができないか」となり、初めてR4年度に「体育祭」（ブロック毎の種目）、令和5年度に「音楽祭」を開催。
- ・6年生の卒業式無し。前期課程の修了証を渡す。  
6年生の最後に「部活」「自転車の乗り方」「学習のまとめ」「中期の引継式」を行う。
- ・学校課題研究：一つの教科に絞れない。大きなテーマを決めて、教科毎に取り組んでいる。

2) 1) について思ったこと、あるいは印象に残ったことなど

- ・施設：体育館が2つある。（そのうち1つは冷暖房完備）
- ・行事：小中一緒に開催することの難しさを感じた。
- ・教職員の意識：小中の共通理解、共通行動の難しさも、開校当初から起こる気がする。  
授業や諸活動をする上で、中学校教員の負担が大きくなることが予想される。

### 3) 本町ならば、どのような小中一貫教育を取り入れられるか

- 令和7年度の開校前から小中学校の教員の交流や情報共有ができる機会が欲しい。現在、川島町で「学び合い交流授業」が行われているが、授業参観に来る時間も生み出せていない。お互いの授業を見合うこと、どのように授業を進めているのか等、確認ができるとよい。  
また、出前授業や体験授業（入学）も、令和6年度当初より計画しておく必要がある。例年、3月に行っているが、2・3学期中に開催できるようにしたい。
- 学校の施設で開催できない場合、町の施設利用を優先的に借用（使用）できると良い。（町民会館、町民体育館、平成の森グラウンド等）
- 駐車場問題。小中の保護者が一度に停めることが不可能。小中職員は現駐車場と北棟の新駐車場に停められると、北側砂利駐車場は全て保護者が利用できる。

1) 視察で、見たこと 聞いたことなど

- ・清掃の様子（縦割り清掃の方法 メリット・デメリット）
- ・乗り入れ授業の様子（音楽、美術 中学教諭が小学生を教える授業）
- ・下校の様子
- ・9年間の学園の流れ
- ・要録等の事務作業の方法

2) 1) について思ったこと、あるいは印象に残ったことなど

- ・清掃について 7～9年生の生徒が上手に1～3年生の様子を見て声をかけていた。
- ・9年間の学園の流れを聞いて、定着するまでに時間がかかることが分かった。最初は保護者からの心配事があったようだが、現在では様々なことが定着（当たり前）になったので、保護者からの要望のようなものはない。
- ・小学6年生の卒業式、中学1年生の入学式はない。無くて困ることはあるのか確認すると、特にないということであった。
- ・授業を見ていて、1年生から9年生までの成長過程を見られるのは、とてもよいと感じた。ただ、生徒指導上の共通理解をしっかりと図らないと、難しいという話しが印象的だった。発達段階に応じて、どこまでできるようにするのかをしっかりと共通理解・認識をはかれないと難しい様子だった。

3) 本町ならば、どのような小中一貫教育を取り入れられるか

- ・9年間を見通した生徒の育成

【課題】 小1～中3までが同じ敷地内にいるなかで、発達段階に応じて、何をどこまでできるようにするのかの確認が必要。小学校教員の視点と中学校教員の視点をそろえる必要がある。

他市町村から異動してきた先生方との共有。

【対応願いたいこと】

伊草小学校の学区編成を考えたほうが良い。令和7年度以降、つばさ小・川島中は同じ敷地内にいて、同じ時間の流れで生活する。その中には小中の交流行事が含まれてくる。その集団の中に、違う文化で生活してきた伊草小の6年生のおよそ半分の児童が毎年川島中に入学してくる。これで本当に大丈夫なのでしょうか。小中一貫教育校または中学校を統合するときやることは、数年後の統合を見越して小学校の学区編成からではないのでしょうか。それを考えていないと聞いて本当に驚きました。令和7年度からは、伊草小の児童はすべて西中学校に通学するものだと思っていました。令和7年度以降、伊草小学校の職員・児童・保護者が、とても不憫に感じます。少なくとも、今年度小中一貫推進協議会の様子を見ていただければ、伊草小さんの苦労がわかるはずです。西中学

区とも話をしながら、川島中学区とも調整をする。学区編成をしないならば、伊草小の児童・生徒の思いを守れるシステムを構築していただきたいと思います。それは、学校の役割ではなく統合を推進してきた方たち行政の役割かと。伊草小を考えないで、川島中の行事につばさ小を交流させることはできません。そこに伊草小を参加させればいいという発想は、何も知らない・考えていない証拠かと。無責任ともいえます。伊草小の児童・保護者・職員の思いを守れるシステムをお願いします。そこが、改善されて初めてつばさ小・川島中の小中一貫教育がはじまると思います。

## 1) 視察で、見たこと 聞いたことなど

- ① 縦割り清掃の実施。9年生が中心となって活動している。4月に縦割りレク等をやり、5月から縦割り清掃を実施している。班の分け方は教員が考えていて、それを清掃に生かしている。
- ② ブロックを3つに分けて、前期ブロックを1年生から4年生、中期ブロックを5年生から7年生（中1）、後期ブロックを8年生（中2）と9年生（中3）としている。各ブロックの最上級生がリーダーとしてそのブロックの下級生を引っ張っている。中期ブロックから50分授業になり、行間休みがなくなる。
- ③ 委員会活動は2ヶ月に1回の実施。
- ④ 各施設（特別教室、グラウンド、体育館、図書室など）は2つずつあり、1つしかない教室は技術科室のみ。校舎が大きいため、生徒の移動が大変。新校舎の教室はドアがなく、廊下のどこからでも入れるようになっている。
- ⑤ 1年生から6年生はバス通学・バス下校。

## 2) 1) について思ったこと、あるいは印象に残ったことなど

- ① 班の分け方は生徒会本部役員が中心となって考えてもよいと思った。
- ② 中1ギャップではなく、小5ギャップがあるということで5年生で頑張ってもらわないとということだった。
- ② 男女のトイレが隣接していないため、水道の数が多くて、よいと思った。教室がオープンになっているので、生徒の様子や教室の状態がすぐにわかるのでとてもよいと思った。職員室に1年生から9年生の職員が全員入ってもまだ余裕がある広さだった。

## 3) 本町ならば、どのような小中一貫教育を取り入れられるか

- ・施設の大きさがみどり学園とは違うので、同じようにすることは難しいと思う。新校舎には4年生までが生活するので、前期・中期・後期のブロックに分けることはできると思う。中1になってからがらっと生活が変わるのではなく、小5という早いうちでの変化であれば大幅な生活の変化にはならないと思うのでギャップが少なくてもよいのではないかと思う。
- ・私の専科は数学ですが、乗り入れ授業の実施ではなく、T2で小学生と関わらせてもらい、小学校の教育課程が終わり次第、中学校の内容に移り、つまずきやすい正負の

数の計算の練習を小学生のうちから練習させる方が数学的な技能が身につくと思う。

## 1) 視察で、見たこと 聞いたことなど

- ・ 1～9年生（中学1年生という呼び方ではない）
- ・ 縦割り清掃が実施されていた
- ・ 縦割り清掃の班決めは9年生が班分けをしている
- ・ロッカーの割合が1人あたり1.5個使える状況
- ・ 体育館やグラウンド、美術室、理科室などが2つずつある
- ・ 新しく作った校舎の費用は25億円（2/3は国が負担）
- ・ 各委員会の実施は行事の都合上2ヶ月に1回
- ・ 各施設は2つ以上ずつ無いと厳しい
- ・ 下校児童に使っていたのは大型バス

## 2) 1) について思ったこと、あるいは印象に残ったことなど

- ・ 下総みどり学園の先生からも言われた通り、グラウンドなどの各施設が2つないとかかなり厳しいと言われた。
- ・ 校舎が大きくて長い分、生徒の移動がとても大変そう。
- ・ 校舎の廊下の幅とても広く、移動やすれ違いがとてもスムーズ。
- ・ 体育館には冷暖房完備されていて、熱中症の心配などがあまりないように思えた。
- ・ 職員室も大変広く、とても使いやすそうだった。
- ・ 職員室の机の配置も中学校と小学校が向かい合わせで横一直線に配置できる大きな職員室だった。
- ・ 児童生徒が使うトイレの配置が隣り合わせではないのは、プライバシーの配慮としてとても良いと思った。

## 3) 本町ならば、どのような小中一貫教育を取り入れられるか

- ・ 川島町の広大な土地を使えるのであれば、同じような施設を作ることができると思います。
- ・ 小学校（1～6年生）の英語を中学校教員が実施するのであれば、単純に中学校教員の業務が増え今できていることができなくなる可能性があるが、小学校教員で専科教員が増え中学校教員が小学生の授業に出ないですむのであれば今の業務を差し支えなく行うことができる。

1) 視察で、見たこと 聞いたことなど

<清掃活動> 1～9年生で活動(1班約20人)

班の組み方は、まず大きなブロックで分けて、8、9年生が分担を決める。

◎9年生が4年生の生徒を清掃場所まで連れて行っていた。

< 授 業 > 乗り入れ

音・美・体は全時間、中学校の教員が担当

5年生から教科担任制

◎規模がそこまで大きくないため、持ち字数の負担はそこまで大きくないそう

< 設 備 > 特別教室は2つずつある。1つしかないのは、職員室、相談室、技術室

◎教室配置は(5年)(7年)(6年)

<そ の 他> 朝の職員集合はなく、連絡は回覧板で行う

小学校で採用された教員が、校内人事により、中学を受け持つと、次からの異動は中学校に行くことができる。

2) 1) について思ったこと、あるいは印象に残ったことなど

・中1ギャップはほとんどないが、小5ギャップがあると聞いて、なるほどと思った。

(小5から50分授業スタート、教科担任制、委員会クラブ活動開始、行間休みなし)

・縦割りを組むのが大変そうだったと思ったが、2人ずつ低学年から配置していき、上級生にリーダー的存在が配置できない場合には、下級生のリーダー的存在を配置すると聞いた。多様な場面で複数の生徒がリーダー経験を積むことができることは良いことだと思った。

・教室配置で7年生が真ん中になるのは、リーダー育成の観点からは良いと思ったが、7年生には校則や制服の着用があるので、違和感が生まれにくいのかなと思った。

・乗り入れ授業を観てきたが、小中が絡んで何か特別なことをやっているかということではなかった。その教員のことを知らずに見に行った者としては、一教員が普通に授業を行っているのを観ただけだった。特に小中一貫教育の何か・・・ではなく、通常の授業参観だった。そのため、授業参観から小中一貫につながる成果は得られなかった。

・乗り入れ時には中学校教員が授業を行っていたが、TTで小学校教員が入ってはいなかった。空き時間か、教科担任の場合は別のクラスに授業に行っていると聞いた。細かくは分からないが、中学校教員の授業数が増え、小学校教員の空き時間が増える。しかし、資料を見ると、部活動等には小学校教員はほとんど関わっておらず、やはり負担感は中学校教員に多く



感じられると思った。

- 小中一貫という環境を希望している教員にとってはよいが、それを希望していない教員にとって異動先が小中一貫だと難しい場面もあるのではないかと思う。

## 4 まとめ

### 小中一貫教育校の先進事例視察を終えて

これまで、小中一貫教育校の開校に向けて、先生方から、「小中一貫教育校とはどのようなものなのか、学校生活はどのように変わるのか」といった心配や不安の声が寄せられていました。そうした声を真摯に受け止め、今年度は、学校現場で直接指導にあたる教員を対象に、先進校の学校生活の参観や説明を通して、小中一貫教育の理解と川島町の小中一貫教育校の具体的なイメージを持つことを目的として、先進事例視察を実施しました。

これまで機会あるごとに情報伝達を行ってきましたが、やはり、現地で目の当たりにすることには説得力があります。参加した先生方は、積極的に参観し、校長先生や教頭先生の説明にも途切れることなく質問していました。

みどり学園、大徳校長の説明の中で、特に印象の残る言葉がありました。それは、小中一貫教育全体を俯瞰して、最も大きな成果は、「9年生までの子どもが一緒に生活することそのものが成果であり、それは、現代生活の中で失われつつある、生活の中にある自然な異年齢社会の学びを可能にしている。」と力強く明言されたことです。乗り入れ授業や交流行事等の成果に目を奪われがちな小中一貫教育校ですが、それ以前の根底となる成果を忘れてはならないことを示唆しています。私たちは、そのことを承知の上で、様々な取り組みを具体化していけばよいのだと改めて教えられました。これから乗り越えるべき壁も多いと思いますが、軌道に乗った先進校では、私たちと同じく、落ち着いた日常が流れていたことも付け加えておきます。改めてこの研修を通して、自身が見て・聞いて・確かめてこそ、真の姿が見え、自分自身の力になるものだと感じました。

先進事例視察を終え、改めて、こうした取組がしっかりと目的を達成し、川島町の小中一貫教育校の開始がより良くスタートできることを願います。





川島町マスコットキャラクター

かわみん かわべえ